

ふる～ぶ～ fleuve

VOL. 73

2006/3

contents

巻頭特集

吉野川アラカルト

人形浄瑠璃と吉野川

ふる～ぶ編集部がおじゃまします。

北島小学校の巻

今月の表紙イラスト 四国のみずべ八十八カ所

ウチノ海

ふる～ぶめいと通信

今切(いまぎれ)

清流を取り戻そう～江川エコフレンドの活動～

らっくらエッセイ

風邪を引いたら…

ふる～ぶインフォメーション

吉野川現地(フィールド)講座

コアジサシデコイ(模型)作り

～吉野川にコアジサシを呼び戻そう!!～

よりよい吉野川づくり

第10回第5回吉野川堤防強化検討委員会

ふる～ぶひろば

編集後記・プレゼント

7

7

6

6

5

4

4

1



人形浄瑠璃と吉野川



※けいせい
徳島工芸村にて（傾城阿波の鳴門）

現在、阿波十郎兵衛屋敷が改修中であることから現在は毎週土日祝日に徳島工芸村で県内の浄瑠璃座が交代で「傾城阿波の鳴門」と「曾根崎心中」を上演している。（徳島工芸村での上演は3月末まで）

徳島に伝わる伝統芸能と聞いてみなさん何を思い浮かべますか？
いろいろとある中で人形浄瑠璃を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。徳島には多くの太夫部屋や人形座があり、江戸時代に大成した人形浄瑠璃は現在も語り継がれています。

もともとは京都で生まれた人形浄瑠璃がなぜ、阿波の国でも発展したのでしょうか？実は、吉野川が存在とも大きな関わりがあるのです。

人形浄瑠璃を歴史的に考察している四国大学文学部教授の大和武生さん、また日頃から人形浄瑠璃に関わっている阿波十郎兵衛屋敷の高野文子さんにお話を伺いました。



※傾城阿波の鳴門…明和5年(1768)に大阪竹本座で初演された。近松半二、八谷平八、寺田平蔵、竹田文吉、竹本三郎兵衛の5人による作品。十段からなる作品であるが、現在では「十郎兵衛住家」(順礼歌の段)のみが上演されている。順礼歌の段では、十郎兵衛の妻お弓の元に、両親を探し巡礼中の実の娘、お鶴が訪ねてくるが、娘に罪がかかることを避けるため、名乗りをすることができないまま生き別れとなってしまう。モデルとなった板東十郎兵衛は作品ができる70年前に処刑されているが、その原因は不明である。戯曲の殿様のために名刀の行方をさがすというのは、作品として創作されたもので史実とは異なる。

人形浄瑠璃と吉野川



四国大学文学部教授
大和 武生さん

専門は日本文化史、思想史、博物館学。著書に「阿波人形浄瑠璃」「阿波・近世文化の諸相」など。分かりやすく丁寧に阿波と人形浄瑠璃のつながりについて教えてくださった。



「人形浄瑠璃は吉野川流域に発展した藍が育てた芸能といえます。」とまず始めにお話してくださった大和さん。阿波の国と、人形浄瑠璃のつながりは約400年前まで遡ります。阿波国の最初的大名、蜂須賀家政公は豊臣家の家臣でした。関ヶ原の戦い(1600年)の際に家政は豊臣側に参戦を要請されましたが、家政は大名の立場を捨て阿波の領土を返上し、参戦せず、家政の息子である至鎮^{よししげ}は徳川側で戦いました。(この時に家政は出家)この功労から蜂須賀至鎮は、徳川家から阿波大名に命ぜられたのです。

豊臣家が徳川家康により滅亡させられた大阪冬の陣・夏の陣(1614年・1615年)で、蜂須賀至鎮が徳川家に参戦し、再び大きな功績をあげたことから阿波本土の領土の上に現在の淡路島を加えて与えられ、阿波藩となりました。

淡路島が阿波藩に編入されたことも、人形浄瑠璃の発展のきっかけとなりました。兵庫県の西宮神社と広田神社とは姉妹神社でした。そして広田神社の荘園が淡路島にあり、神社のお札を売るのに、淡路島の農民が従事していました。西宮神社は漁業の神様なので「おいべっさんが鯛釣った」といいながら祭神のえびす神が鯛を釣る様子を人形で表現しました。浄瑠璃の語りと人形を合わせるときに、お札売りをしていた淡路島の農民たちに人形を遣わせてみようということで浄瑠璃芝居は成り立ちました。その後、阿波藩主蜂須賀至鎮は、この淡路島の人形遣いの農民たちを特別な身分^{*}「道薫坊廻百姓」にしました。当時は今の時代のように自由にどこにでも国境(現在の都道府県)を越えて旅することはできませんでしたが「道薫坊廻百姓」達は、自由に国を超えて興行する許可をもらい、全国各地で人形芝居興行をし、西日本を中心に人形浄瑠璃を広

めました。大阪には竹本座、豊竹座といった有名な人形座がありましたが、そこで発達させた人形の技術を淡路の人形座が全国に拡める役割を果たしました。

各地を巡業すると人形が痛んでしまいます。この淡路島の人形遣いたちを支えたのが、当時、徳島の国府を中心に数多くいた人形師(人形を作る人)たちです。

興行の時以外にも人形を遣って練習をしなくてはならない。そのためには、人形を作る人たちが必要でした。阿波に住む人たちが全国に人形をひろげ、人形遣いを支えるために人形師が数多くうまれ多くの人形を作っていたのです。その土壌は今でも受け継がれています。

こうした背景からも江戸時代には、阿波の国に多くの人形座が生まれました。こういった人形座の公演を支えていたのが藍がもたらした経済力でした。他国でも藍の栽培は行われていましたが、商業藍としての良質藍は、徳島が全国の90%以上という驚異的なシェアを誇っていました。

藍が栽培されていた吉野川流域では、藍商人達が藍作に従事している農民達の慰労として、淡路島からプロの人形座を有料で招き、広場や収穫後の田園に、臨時の小屋がけで浄瑠璃の公演を行っていました。定期的に行うので、同じ演目では飽きてしまいます。そこで、人気のある演目を色々と見せることになりました。さまざまな要素が重なり、藍の発展が浄瑠璃の発展ともつながったのです。

「もしも、吉野川がもたらした肥沃な土壌がなければ、藍作も発達しなかったでしょう。藍がなければ阿波の人形浄瑠璃の背景もずいぶんちがったものになっていたにちがいない」というお話が印象的でした。

*道薫坊(どうくんぼう)・・・木偶(でこ人形)のこと

人形浄瑠璃とともに

高野 文子さん

「十郎兵衛は悪人という説もあるけど、お墓や、処刑をされた跡まで残っている。ほんとに悪人ならこれほどまで上演され続けられないでしょう。地元の人に親しまれている『傾城阿波の鳴門』では、せつなさを情感たっぷりに表現していきたいです。」とお話してくださった高野さん。



阿波十郎兵衛座の皆さん。(向かって一番右が高野さん)



阿波十郎兵衛屋敷



十郎兵衛の墓所がある宝生寺

「傾城阿波の鳴門」の十郎兵衛の屋敷跡として知られる、阿波十郎兵衛屋敷(徳島市川内町)に、人形浄瑠璃ができるように舞台が設備されたのが昭和54年でした。そこで屋敷の近くに住む方々で結成されたのが、宮島婦人民芸部。その後、阿波十郎兵衛屋敷民芸部→阿波十郎兵衛座と名称が変わりながら阿波十郎兵衛屋敷の専属座として、年間約350回もの「傾城阿波の鳴門(順礼歌の段)」の定期公演を行ってきました。高野さんは結成当初から加わり、阿波十郎兵衛屋敷にも昭和55年から勤務をされ、人形浄瑠璃に関わってきました。

阿波十郎兵衛屋敷では、屋敷内の掃除から始まり、チケットの販売、応対などをしながら高野さん自身も、阿波十郎兵衛座の一員として上演をしてきました。訪れる方々は、全国各地から。海外から観にこられる方もいます。初めて人形浄瑠璃を観るという方も少なくありません。浄瑠璃の歴史について、人形についてなど、ありとあらゆる質問があるそうですが、そういった質問にすべて答えられるよう、勉強を重ねてきました。

人形浄瑠璃では、一体の人形を動かすために、3人の人形遣いが必要で、3人そろって始めてひとつの人形の動きが完成します。同じ人形でも、人形を遣う人によって人形の性格や表情が変わってくるそうで「不思議なもので、ゆったりとした性格の人が持てば、ゆったりとしたお母さんのお弓に。しっかりとした性格の人が持てば、しっかりとしたお弓さんになるのですよ」とも。「傾城阿波の鳴門」を観た方から「お母さんが子どもを大切に思う気持ちが伝わってきた」「子どものお鶴が慕っているのが分かった」と言われると「やっていて良かった」と感じるそうです。「私達にとっては何百回目かの上演かもしれないけれど、観る人にとって初めての人形浄瑠璃かもしれませんし、故郷の伝統芸能を久しぶりに観て下さっている方かもしれません。毎回の上演に慣れてしまっただけではない。いつも緊張感をもって上演し続けていきたいです」とお話してくださいました。

現在、阿波十郎兵衛屋敷の舞台の改修工事が行われており、4月にはリニューアルオープンされます。今までは屋根だけがある屋外劇場で、風雨が強い悪天候の時には上演ができないこともあり、12月から2月までは平日の上演が行われていませんでした。改修された後は、全天候型の舞台となり、1年中公演を行うことができます。また舞台も広くなることから「傾城阿波の鳴門」以外の演目も上演可能となります。今まで以上に多くの方に訪れてもらえる施設となりそうです。



阿波十郎兵衛屋敷のすぐ南の堤防からの眺め。



宮島江湖川。阿波十郎兵衛屋敷のすぐそばを流れています。



平成14年から新しい外題として取り入れた「えびす舞」。今年1月に開催された徳島市の事代主神社のえびす祭りでは、地元の両国本町商店街振興組合の依頼により、えびす祭りでは初めてとなる「えびす舞」を披露し、町を練り歩いた。



このコーナーでは、ふる～ぶ編集部が学校や、学習の現場に取材しています。



北島小学校の巻!!

わたしたちみんな地球人

北島小学校では児童だけでなく、職員、保護者一同で平成17年度から「学校版環境ISO」に取り組んでいます。子どもたちが環境に関する目標をたて、その目標が達成できているのかどうかの成果もチェックし、継続的に行い、推進していくというものです。1.ゴミの分別やリサイクル、ペットボトルや古紙の回収。2.資源を大切に使う。3.環境について学習する。の3つの目標を立て、実現と推進を行っています。

全校で取り組んでいるこの活動。そのなかでも5年生100人が、総合的な学習の時間(わくわく学習)で「わたしたちみんな地球人」をテーマに、環境について学んできたことから、全学年の環境リーダーをつとめてきました。北島町は今切川・旧吉野川に囲まれていることから、今切川の清掃活動や歴史の研究、川に棲む生き物についても調査をし、古紙回収、上流の学校との交流など、幅広く環境に関する学習を行ってきました。12月下旬には、自宅から使い古した天ぷら油を持ち寄り、保護者と一緒に学校で廃油石けんを作りました。編集部が訪れた日は、その完成した廃油石けんを切り、入れる紙袋をつくり、その袋にメッセージやイラストを描く活動が行われました。のこぎりを持って切ることに悪戦苦闘をし



たり、ミシンで袋を縫うときも針から糸が抜けてしまったりすることもありましたが、子どもたちの表情が終始、生き生きとしていました。この石けんは自宅に持って帰るだけでなく、交流を深めている平野小学校、政友小学校にも贈られます。

環境に関する学習を行うようになってから、子どもたちの意識もどんどん変わっていったようです。「歯を磨く時は、水を出しっぱなしにせず、コップに水を入れて使うようになった」「油を流さないように、油ふき(新聞を切ったもの)を使うようになった」「シャンプーとか詰め替えができるものについては詰め替え用を使うようになった」など日頃、実践していることを教えてくれました。環境に優しい活動を日々の生活に取り入れ、家族にも協力を呼びかけています。学校の水道に「節水しましょう」と張り紙を貼ったのも5年生です。給食を残す量も全体的に減ってきたそうです。先生方は「モノが豊富な時代ですが、この学習をきっかけに無駄遣いをせず、環境を大切にしていけることを継続的に続けていけるように成長してほしいです」と話してくださいました。取材の後、子どもたちから「これ使って



ください」と、心を込めて作られた廃油石けん、油ふきをいただきました。子どもたちから学ぶことの多い一日でした。

今月の表紙イラスト 四国のみずべ八十八カ所



88 Watersides in Shikoku

四国地方整備局では、21世紀に残し、地域が誇ることのできる四国のみずべ空間を選定する「四国のみずべ八十八カ所」を平成13年9月から、1年間に渡って募集し、平成15年に決定しています。ふる～ぶでは、西山欣子さんによる表紙イラストにて、「四国のみずべ八十八カ所」をご紹介します。

No.2 ウチノ海

瀬戸内海を望むことができ、静かな水面は、見ているだけでほっとする場所です。釣りや漁業が盛んな場所で、近くには「鳴門ウチノ海総合公園」もあり、憩いの場となっています。



「四国のみずべ八十八カ所」の詳細情報は、<http://www.skr.mlit.go.jp/kasen/mizube88/> まで

ふる～ぶめいと通信

ふる～ぶめいとのみなさんは、
吉野川が大好きな吉野川ファンの集まりです。

ふる～ぶめいとの活動は、吉野川や、
吉野川流域の吉野川に関する身近な
情報をふる～ぶに提供することにより、
吉野川に親しみや、関心を持って
いただて、吉野川ファンの輪を広げ
ていただくことを目的にしています。



今切(いまぎれ)

徳島市 萩澤 明雄さん



喰川が、吉野川(旧別宮川)に合流している付近の徳島市春日は、江戸時
代から昭和11年まで「今切」と呼ばれていた。「徳島県阿波国徳嶋近傍地図」

(明治18年～大正元年)を見ると、鮎喰川下流の川尻は、砂礫が広がり、流水が伏流して流路が
消え、田宮から北へ、今切、喜来(現・不動東町)、支流を挟んで、浜高房、吉野川と続いている。こ
の分布から見て今切とは、いつかの洪水で堆積していた浜高房の一カ所が決壊し、吉野川に注ぐ
流路ができた所に川筋をつけたものと推察される。

昭和12年「春日」と改名したのは徳島城築城の際、城下の鎮守として、田宮村にあった春日神
社を眉山町大滝山に遷座しているのです、この春日神社にあやかっただものと思われる。

今切川も、高房の一角が決壊して南流した川名であろう。



清流を取り戻そう ～江川エコフレンドの活動～

吉野川市
今中 忠重さん



朝7時、まだ薄暗い川辺で百人余りの人々がゴミを拾っている。
空缶、ペットボトル、ビニール袋、トレイ……。

吉野川遊園地の西端を水源とする江川は、大正の頃までは吉野川の
分流でした。水源地では川底から清水がわき、全国名水百選にも選ばれ、
流域は夏には蛍が飛び交い子どもたちの水浴びも見られる憩いの場
になっていたそうです。

ところが高度成長期から汚れ始め、どぶ川化したため地域の人たち
が昔ながらの清流を取り戻そうと立ち上げたのが、ボランティアグルー
プ「江川エコフレンド」です。会員は地域の人々を中心に約60人ですが2年前から思わぬスタッフが
加わりました。近くの鴨島第一中学校の生徒の皆さんです。月1回の活動日(毎月1日)には始業直前
まで毎回50人程が自主的に参加しています。

地域の住民が、子どもたちと連携して環境美化に取り組むことにより、この子どもたちが将来故郷に
愛着を持つようになるでしょう。スタートしてから5年余り、先日NPO法人として認証されました。「この
運動を全市に広げたい」が江川エコフレンドの今後の取り組みだそうです。



RaRaRa Essay vol.10

風邪を引いたら...

ふる〜ぶめいと安原多恵子さんが季節にまつわる様々な話題を文字とイラストでつづります。

今年の冬も風邪が流行して、インフルエンザによる学級閉鎖があいついだようだ。

ここ数年、風邪とご縁の切れていた私もとうとう引いてしまった。インフルエンザではなかったが、喉の痛みと鼻水に参ってしまった。風邪で喉が痛いと言うと、年配いた母は即座に生姜たつぷりの葛湯を作ってくれる。熱々のそれは、実に喉に気持ちがよくて

「ああ、これできつと治ってしまっただろう」と思わされるほどだ。

風邪の民間療法は他にも沢山ある。そのいくつかを紹介してみよう。

鼻にくる風邪なら

● 長ネギの絞り汁を鼻の周りに塗る

● 生姜の絞り汁と長ネギのそれを一緒に熱い湯で割り飲む

寒気におそわれたら

● 日本酒の中に卵を入れ火にかけ、半熟状態の時甘味を加えて飲む(卵酒)

● 葛湯、梅干し湯など熱いうちに飲む



喉の痛い風邪なら

● 葛湯、生姜の絞り汁と蜂蜜か砂糖を入れて熱いうちに飲む

● キンカンの煮出し汁。これも甘味を加えて熱いうちに

● 大根汁。切った大根を蜂蜜だけで漬けて込み出してきた汁を飲む(2〜3日かかる)

● 長ネギの焼いたものをガーゼに包み喉に巻く

などなど。こじらせないうち

お医者様に行くのが一番だけれど、行かれない時や引き始めの時に試してみる価値はありそうだ。

ついでに世界の民間療法をのぞいてみると大根汁、生姜汁が意外と多く利用されていることにびっくり。フランスでは赤ワインを使った卵酒とあるのに、ひとり納得の私だった。

安原 多恵子 板野郡藍住町生まれ。徳島市在住。短歌「松籟」「徳島短歌」「女人短歌」を経て現在「塔」所属。歌集に「さ緑の風」。

ふる〜ぶ infomation

吉野川現地(フィールド)講座

コアシサシデコイ(模型)作り

〜吉野川にコアシサシを呼び戻そう!!〜

近年の吉野川ではコアシサシ(環境省レッドデータブック:絶滅危惧Ⅱ類)の繁殖があまり確認されなくなっています。昨年に引き続き、今年も繁殖地の保全対策の一環として、デコイ(模型)作りや観察会を開催します。このイベントを通じて河川環境保全の大切さについて考えていただきたいと思います。

募集要項

第1回

紙粘土によるコアシサシのデコイ作り
日時:平成18年3月25日(土) 9:00~12:00
場所:徳島河川国道事務所

第2回

デコイの河原への設置、野鳥観察
日時:平成18年4月8日(土) 9:00~12:00
場所:西条大橋付近の河原(阿波市西条)



参加費 1人100円程度(障害保険料)

募集人員 親子25組(50名。小学生と保護者を優先)

締切 平成18年3月15日(水)必着

申込方法 参加者全員の郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号(自宅・中止時の連絡先)講座名を記入のうえ、FAX、ハガキ、Eメールでお申し込みください。申込多数の場合は抽選となります。

☆ 第1回、2回両方にご参加ください。汚れてもよい服装の準備をお願いします。

申込先・お問い合わせ先

〒770-0803 徳島市上吉野町3丁目35 国土交通省徳島河川国道事務所 用地第三課(現地講座・コアシサシ)係
電話:088-654-9153(直通) FAX:088-654-9177 Eメールアドレス:tokusa37@skr.mlit.go.jp



第10回

第5回

吉野川堤防強化検討委員会

このコーナーでは、
吉野川河川整備計画についての
取り組みについて、ご紹介していきます。

私たちの命や暮らしを守ってくれているのが堤防。しかし、岩津から下流の堤防は、明治後期から、昭和初期に作られたものも多く、その材質や強さが分かっていないものもあります。堤防の浸透、侵食、地震について、対策が必要な箇所については、堤防強化対策を行うことを目的として、指導、助言をいただく「吉野川堤防強化検討委員会」を設置しています。

2月2日、ウェルシティ徳島（徳島厚生年金会館）で「第5回吉野川堤防強化検討委員会」が開催されました。洪水などによる堤防の浸透、侵食について、第4回の委員会で一次選定された強化方法に対して、自然環境や施工性などを考慮した二次選定の検討ならびに、吉野川下流域に被害をおよぼす地震についての検討が行われました。地震については、国土交通省徳島河川国道事務所のとりくみや、東南海・南海地震のような大規模地震に関する堤防の安全性照査方法について紹介されました。

洪水による堤防強化方法の二次選定を行うにあたり配慮する事項として

- ①自然環境（動植物・地下水）への影響
- ②河川利用への影響
- ③維持管理上の問題点
- ④施工性
- ⑤経済性

が挙げられ、今までに被災した場所や工学的に弱部とされる箇所を対象として、対策事例が紹介されました。

堤防の地震対策については、今までにどのような方法によって検討、対策が行われてきたのか紹介され、今後、東南海・南海地震を想定して吉野川、旧吉野川、今切川において堤防の安全性を照査し、必要な箇所について堤防強化対策を行っていくことが確認されました。次回が最終の委員会となるので、地震に対する現況堤防の安全性評価や、浸透、侵食、地震に対する堤防の強化工法の総合検討といったとりまとめが行われます。



平成17年度 石井漏水対策工事（名西郡石井町藍畑）

台風や大雨により堤防の周辺で漏水が確認されました。漏水対策として遮水シートの設置が行われています。（工期は平成17年6月4日～平成18年3月31日まで）

漏水・・・洪水時に発生する現象。河川水の堤防への浸透による場合と、基礎地盤への浸透による場合がある。河川水位が高く、水位の継続時間が長いほど、堤防に水が浸透し漏水現象が発生しやすくなる。漏水により堤防が壊れやすくなる。

用語解説

浸透（しんとう）……土の中の水の運動形態の一つで、水の供給源と流れの末端とが繋がっている状態をいう。
侵食（しんしょく）……川などの水の流れによって、地表が削られる働きをいう。

第5回吉野川堤防強化検討委員会参加委員名簿（敬称略）

山上 拓男 徳島大学工学部教授
澤田 勉 徳島大学工学部教授
岡部 健士 徳島大学工学部教授
石川 浩 国土交通省四国地方整備局・徳島河川国道事務所長

よりよい吉野川づくり（吉野川河川整備計画）については、徳島河川国道事務所のホームページで詳しくご紹介しています。

<http://www.toku-mlit.go.jp/>



ふる～ぶ編集後記

人形浄瑠璃を観たのは久しぶりでした。（もしかすると子どもの時以来）人形が生きているかのように見え、話に引きこまれていきました。藍と浄瑠璃とのかかわりや歴史など、知らないことをたくさん知る機会となりました。（や）北島小学校のこどもたちから、もらった油ふきは、新聞紙を切って、ひもで閉じたもの。いいアイデアですね。楽しみながら、ひとりひとりがエコライフを考えたいものですね。（か）

戌の干支プレゼント



ふる～ぶのイベントなどでお世話になっている石井町の佐藤潔さん。昨年の酉の竹細工に続いて吉野川の竹を使って作られた戌の干支の竹細工を持ってきました。犬が赤い手まりの上に乗ろうとしているかわいい作品です。今回は、奥様の敏江さんも一緒に作って下さいました。繊細な作品ですので、編集部までとりに来られる方に限らせていただきます。1名の方にプレゼントします。ご希望の方はお葉書またはFAXをお寄せ下さい。締め切りは、3月31日（金）です。

〒770-0803 徳島市上吉野町3-35 徳島河川国道事務所内
ふる～ぶ編集部 竹細工プレゼント係
FAX:088-654-9177